



発行所
日本工業大学
広 報 課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号 345
電話 0480(34) 4111

大川陽康教授

副学長に就任

今般、機械工学科の大川陽康教授が、左記のとおり、副学長に任命されました。

記

教授 大川陽康
日本工業大学副学長に任命する。
昭和六十一年十二月二十日
学校法人東工学園理事長
窪田宗英



大川陽康副学長
(おおかわ・きよやす)

(主な経歴)
昭和四十二年四月
本学助教 教務部長
学校法人東工学園評議員
昭和四十六年四月
本学教授
昭和五十年五月
日本塑性加工学会評議員
昭和五十年七月
学校法人東工学園理事
現在に至る

昭和61年度学内特別研究設備など 高額設備の購入決まる

六十一年度の文部省研究設備、文部省研究装置、学内特別研究設備がすでに決定している。文部省研究設備では、VAX8600システム、文部省研究装置では、画像システム実験装置が採用された。

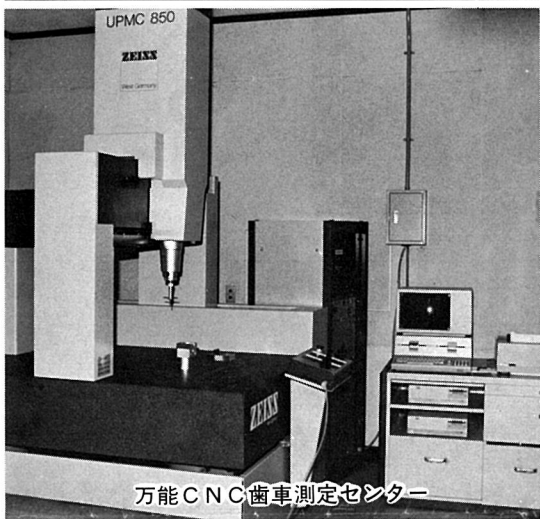
学内特別研究設備は、教員から提出される高額研究設備購入のための計画調査を審査して決められるもので、十二の設備の購入が決定した。ここでは二設備について紹介する。

VAX8600

システム

今回導入されたVAX8600を中心とするシステムは、単にセンターマシンの機種更新ということではなく、学内におけるコンピュータ教育、利用の本格化に向けての総合的計画の一環である。

センターマシンとして選ばれたVAX8600は、最近における汎用マシンの価格・性能の向上に伴い、これまでのセンターマシンにくらべて計算、処理速度が約五〇倍速いばかりでなく、機能的にも



万能CNC歯車測定センター

万能CNC歯車測定センター

この度、機械工作センター精密測定室に導入された三次元測定機(万能CNC歯車測定センター)は、精密測定機では定評のあるドイツのキール・ツァイス社製で、日本の大学には初めて納入されたものです。

非常に高精度で、かつ広範囲な測定ができるPM8500/2450という機種です。国産のメーカーでは、同程度の精度、機能のものがありませんでした。

測定プログラムとしては、汎用、標準プログラムUMES Sとカーブ形状測定プログラムKUM、歯車測定プログラムCONがそろっており、通常の幾何エレメントから、空間的振れをもつ三次元形状の輪郭の測定や歯車の測定までをコンピュータコントロールにて行うことができます。

(解説) 機械工学科
有賀幸則講師

機能の応用に備えた。また、CAI(コンピュータ援用教育)、事務処理への対応に欠かせない漢字入出力機能も強化されている。

また、学内各部局に導入され、さらに将来導入されるコンピュータを有効に利用するために、学内ネットワークを構築することが望ましい。ネットワークは各学科、事務、研究室、施設等にノードを設け、一定のインターフェースにより随時、端末、パソコン、汎用機等を接続できるようにする。このような新しい利用形態を考慮して新しいセンターマシンは、ネットワークを介して二〇〇人の同時利用が処理できるように計画されている。



VAX8600システム

いる。センターマシンから演習室の端末五〇台への接続はその一部であるが、さらに将来このネットワークを介して東大大型センター等、外部機関へ接続するなど、広域の情報利用が可能になる。

(解説)
情報技術センター長
石井 治教授

人事異動

学科主任
(昭和六十一年十月一日付)



◎機械工学科主任
渡辺寛教授(わたなべ・ひろし) 再任



◎システム工学科主任
長谷川洸教授(はせがわ・ひかる) 新任

工業技術院より 松木教授受賞

ジェットエンジンの開発に貢献



このたび、ジェットエンジンの基礎及び要素技術の研究開発に従事され、功績をあげられた、本学の機械工学科の松木正勝教授が、工業技術院より表彰を受けた。

松木教授は、低公害で効率の高い、民間航空機用ファンジェットエンジンの研究開発を行なったが、その研究期間

私はついに登山と呼べるような山登りをしたことがない。夏休みや冬休みは別なことがあって、その暇がなかったのである。

登山はふしぎな魅力のあるものらしい。まず頂点を極めるという喜びがある。自分の体力の限界に挑戦するとうれしみがある。苦しみと喜びが一つになって、よく言うように、苦しみを乗り越えた喜びが本当の喜びであることを端的に知らせてくれる。

登山計画を立てるには、まず自分の体力に合った山を選ばなければならない。次に、確実に、そして早く頂上に達するルートを研究しなければならない。安全第一は当然だが、時には危険も覚悟しなければならない。

私は植村直己さんを思い出している。彼は超人であったが、また極めて人間的な人であった。何をやらせてもできる人だったと思う。ただ、山と冒険の魅力があまりにも大きすぎた。それは執念と呼んでもいいものであった。だから私は彼を無条件に好きになった。

この一文は、登山を研究に置きかえて読んでもらってもいい。

登山と登山家

学長 三浦 邦郎



'87学生募集要項

一般入学試験

出願期間	1月10日～2月13日
試験日程	2月15日(筆答)・16日(面接)
合格発表	2月21日
選考方法	2月28日まで
調査書・筆答・面接による総合審査	
筆答科目	英語・数学・志願学科に関する工業科目
試験場	本学

- ◎材料試験センター
- ◎超高速回転密着性試験機(E7棟の予定)
- ◎マイクロビームX線分散型元素分析装置(材料試験センター)
- ◎半導体特殊ガス処理装置(四一実験室)
- ◎万能CNC歯車測定センター(M6棟)
- ◎CNC型NCホブ盤(M11棟)

留学生座談会

留学生生活を語る

去る十二月二十二日、学生部長室において、初の試みである、留学生の座談会を行った。今回の座談会には、四人の留学生が出席し、四者四様の留学生生活の体験を語ってもらった。留学生の生活ぶり、外の目から見た日本などを、ここに紹介する。

司会 本日は、初の試みである留学生座談会に出席していただきありがとうございます。まず、皆さんが留学先を日本とし、日本工業大学を選ばれた動機から聞かせてください。

マナダール 私の姉は、かつて、アメリカに留学していましたが、アメリカの帰りに日本に寄りました。その時、日本の皆さんに親切にしてください、大変、日本を気に入りました。姉から「日本はい所だ」と、再三、聞かされました。それが、きっかけとなり、日本に関心を抱くようになり、日本語の勉強を始めました。

陳 台湾と日本とは近い関係にあり、台湾の新聞には、日本の経済などの紹介記事がよく載っていました。留学先を日本にしたのは、父が、留学するならば日本がよいと勧めたことと、兄が、武蔵野音楽大学に留学して、合格したのでありますが、それが、たまたま、日本に行く奨学生試験だったのです。日本に来て、日本語学校へ一年半通い、学芸大学附属高校で三年間、電気通信大学で四年間通っていました。

●出席者(出身)

マナダール・N・マナダール (ネパール)
マナダール (修士課程)
建築学専攻一年

陳 焜 鴻 (台湾)
工学院機械工学科四年

ソンポップ・チンタムミット (タイ)
工学院機械工学科四年

野村 隆
教務課主任



マナダール・N・マナダール君

マナダール 漢字は見たことがなかったもので、学部の一二年生の時には、大変苦労しました。先生が書く黒板の漢字は、くずしているのを読みとれませんでした。試験の時は、漢字が書けなかったもので、ひらがなで書いていたのですが、先生の了解がある場合に、英語で書いて、勘弁してもらいました。

日本語で苦勞する

司会 次に、学生生活について、話していただきたいのですが、特に、勉強や試験についてはいかがですか。



マナダール・N・マナダール君

マナダール 日本語は、最初は苦勞しましたが、二年になってからは、レポートがなかったので、なかなか思うように書けず、苦勞しました。

納豆は苦手

司会 日本の食事について、いかがですか。

マナダール 日本の食事は、ネパールとは、かなり違います。お米だけは共通しているのだから、天ぷらは、ネパールにも似たようなものがありました。肉は、ネパールでは三食、食べたいくらいでしたから、大丈夫でした。苦勞したのは、生で食べる習慣がありませんでした。だから、さしみも最初は食べられませんでした。納豆は、今だに食べられません。

好きな所は京都・阿蘇・日光など

司会 日本での旅行で、印象に残ったのは、どこですか。

マナダール 高野山が好みます。私の国、ネパールと京都や長野の善光寺も好きです。山とお寺があるとほっとします。

日本人の親切に感動

司会 日本に来て、よかったこと、嬉しかったことなど、ありましたら、聞かせてください。

マナダール タイには、雪が降らないので、スキー場には、何度か行きました。私は、寒いのが苦手です。冬はあまり好きではありません。京都の寺も好きです。

親切な先生 厳しい先生

司会 本学の先生、学生の印象は、いかがですか。

マナダール 私が日工大に来た時、私の年齢は、すでに、日工大の学生の年齢と離れていましたので、学生は私を学生としてみてくれませんでした。私は、いつも外国人にみられ、こちらから誘えば、たまに、来てくれますが、学生の方からは誘いがなく、親しくつきあってくれませんでした。

陳 先生は、親切な人もいれば、厳しい人もいます。陳 学生の方から、日曜日に何かしようと、誘われるのですが、私は家庭を持っていて、忙いから、学生となかなか、つきあえないのが残念です。

先生は、わからないところを尋ねると、親切に教えてくれます。



ソンポップ・チンタムミット君

マナダール 先生は、実務経験のある人が多く、研究するのも活発で、教えられる時にも、先生自身経験を活かして話してくれるので、説得力があります。チンタムミット 私は、学生と同じ年齢でもあり、外国人とは思われない方が多いですね。実験が長びいて、深夜に及ぶ時は、遠方から通学している人は、私の下宿に泊ったり、試験の時も、私の下宿で皆と一緒に勉強しました。遊びに行く時も、私を誘ってくれます。

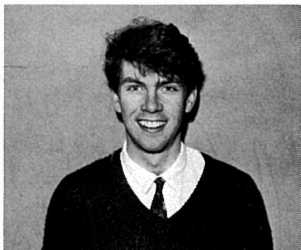
Hi. My name is Rod Findley!

フィンンドリー先生は、昨年の四月から本学で英会話の授業を担当していますが、日本の生活も、早いもので、まもなく一年になります。

このたび、幾つかの質問に対して、フィンンドリー先生にやさしい英語で答えていただくようお願いしました。

質問の内容は、最初に簡単な自己紹介をお願いし、続いて、日本に来た理由について、来日前と来日後の日本の印象の違い、最後に、本学の印象について書いていただくようお願いしました。

機会があれば、また、この紙面で紹介したいと思います。



No, I'm not American. I'm Canadian.

Yes, I can use chopsticks.

Yes, I can eat raw fish.

There,

Now I have answered your first three questions, I'll tell you about myself and my experiences in Japan.

I was born in England, but when I was 6 years old, I moved to Vancouver, Canada. I went to high school there, then to the University of British Columbia and then to McGill University in Montreal, Canada. My major was history-unfortunately not Japanese history.

Actually, I only became interested in Japan about 2 years ago. Before then, I knew very little about Japan-only Sushi, Sony, bullet trains and Toyota. I didn't have any idea about Japanese culture. Nor did I have any impression of Japanese people, except that they were very hard-working.

About 2 years ago, however, I became friends with some Japanese students in Canada. I also met some Canadians who had lived in Japan and taught English there. From them I heard about life in Japan-how interesting it was and how fun it was.

After graduating from University I wanted to live in a foreign country for a few years so as to open my eyes to different cultures and ways of thinking. At that point, I decided Japan was the best place to go. I studied teaching English at UBC, and then came straight to Japan. That was September, 1985.

My first shock upon arriving in Japan was a pleasant one-a sentou. When I first arrived in Japan, I stayed in a youth hostel without a bath, so I went to the sentou every day. There are no public baths in Canada, but, Japanese sentous are so relaxing and wonderful that, when I go back to Canada, I want to start my own Canadian sentou.

My first unpleasant shock came on my second day. It was very hot and I wanted an ice cream. I bought an ice cream bar that I thought was vanilla on the outside and chocolate inside. It looked delicious. But when I took a bite, I found it wasn't chocolate, it was BEANS (anko) ... YUCK!! I threw it away and walked on down the street. I saw a bakery and went in to buy a doughnut. I bought a doughnut with jam inside-or so I thought. I took a bite and ... YUCK! It was beans, too! I was so unhappy that I went to sentou to cheer myself up.

Since then, though I have gotten used to anko and nearly all Japanese food. I can eat nattou, though I think it smells like dirty socks. In the summer I became very used to eating sashimi. I did a homestay program at the house of a Sakanayasan in Hakodate, so we ate sashimi everyday.

In Hokkaido I learned a lot about Japanese life-not only food and Sapporo beer.

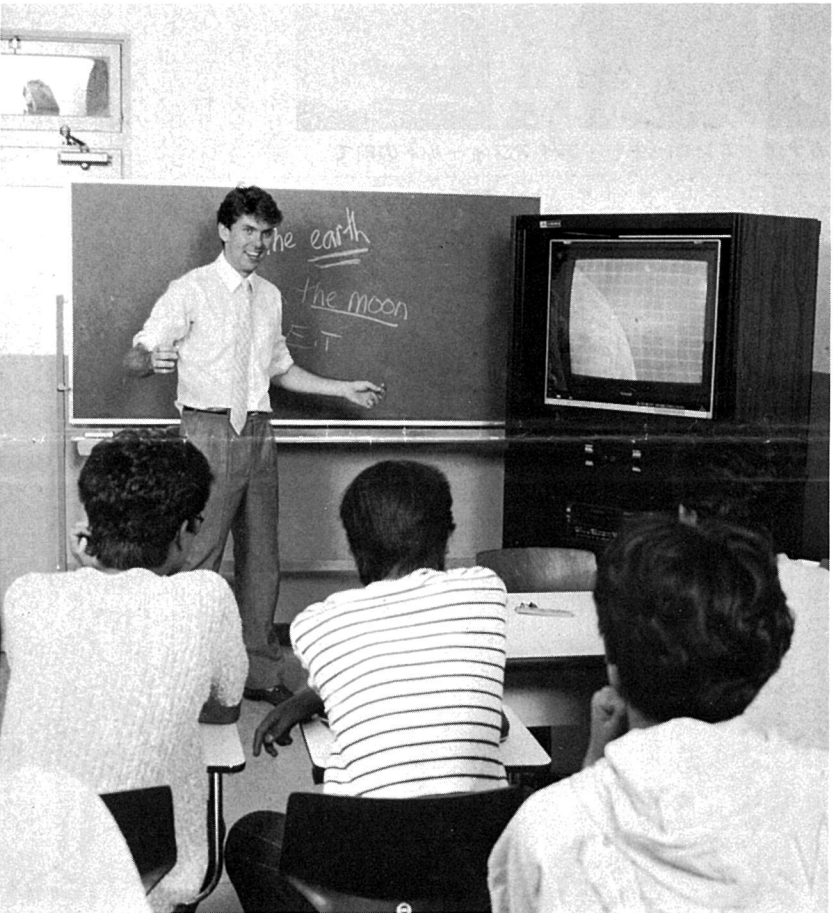
I learned how close Japanese families are-emotionally close and physically close. For example, I had to sleep in the same 6 mat room with Otousan for 6 weeks. That was OK. But he snored every night, very loudly.

At N. I. T., too, I have learned a lot about Japan. I have learned that Japanese students have to study English in high schools, but only for exams. They never have a chance to speak it. I think studying English conversation is a new thing for a lot of students, and a lot of students are surprised when they don't use their pencils in class. But still, those students who enjoy themselves and speak when they can in English have improved a great deal.

My plans are to stay at N. I. T. for at least one more year. From then, I think I'll go to a different country-perhaps France-and teach English there.

So, in any case, you'll see me. So, if you do see me, please talk to me. But, please remember-don't ask me "Those Questions".

From this article you now know that I'm not American, I can use chopsticks and I can eat raw fish. But actually, I hope you have learned more about me than that and will get to know me more in the future.



授業中のフィンンドリー先生

特別講演

去る十月十四日、本学の四号館四〇二教室において、ドイツの Johannes Eidt (ヨハネス・アイト) 氏による特別講演が行われ、十二月十日には、本学会議室において、フランスの Dr. G. BERGER (ベルジ) 氏による特別講演が行われた。講演概要は次の通り。

〈演題〉

ドイツのある都市の戦災復興

〈講師〉

Johannes Eidt (ヨハネス・アイト) 氏

ドイツ版画家

〈対象〉

機械工学科一年生、他

〈講演内容〉

ドイツのオスナブリュックは、戦災を受けて町全体の65%が破壊され、一九三九年に十万人いた人口は、一九四五年には四万人に激減した。一九五一年、戦災都市オスナブリュックを復元するよう計画された。

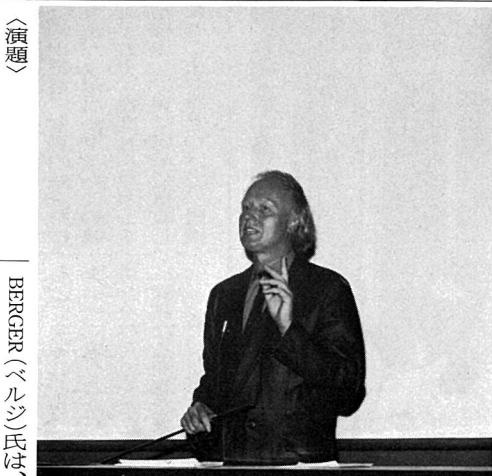
ドイツの建物は、日本の建物に比べて、地震や台風がないので、長持ちするが、復興に際し、建て替えるをしないで、古い建物を残すようにした。新しい建物を建てる場合は、街の美観や一体感を保つために、法律でさまざまな規制をした。例えば、建物の色や材



講演する Dr. G. BERGER 氏



本学・御所研究室にて



Johannes Eidt 氏による講演

る。そのかわり、町から補助金が出る。

繁華街は、以前、車で非常に混雑していたが、現在では、規制されている。つまり、六時から十時までは車両通行できるが、十時以降は通行止めとなる。また、街並規制として、ポスターを貼る場合は、展覧会などのアートポスターに限られている。

BERGER (ベルジ) 氏は、本学の御所康七教授 (超高压放电研究センター) のもとで、研究のため、十一月十七日、十二月十四日まで客員研究員として滞在された。

この講演は、電気学会・気体絶縁への混合ガスの応用調査専門委員会および、日本工業大学の共催で開催されたが、講演終了後、出席者は、本学の超高压放电研究センターを見学した。

第3回 カナダ短期留学 語学研修生を引卒して

団長 鈴木 寛次 教養科助教授

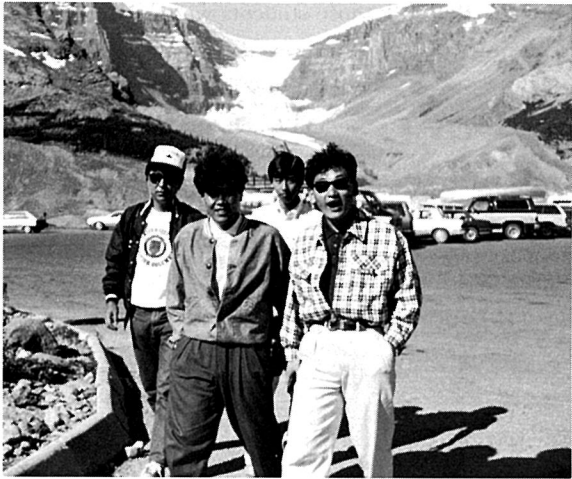


美人のマリー先生による和気あいの授業

カナダ短期留学はブリティッシュ・コロンビア州のUBC(ユニバーシティ・オブ・ブリティッシュ・コロンビア)で三週間に亘って行われた。日工大の行事としては恒例化したと言っている。

第一回、第二回とも成功裏に終了している。第三回としては、従来の軌道に乗って動けば大丈夫、と気が軽くなる一面、そろそろ何か重大事が起こるのでは、と気が重くなる面が、出発前の私の心で交錯していた。

研修生十八名、引卒者二名、計二十名が成田を出発したのは一九八六年八月三日の夕刻。利用便はUA航空一五〇便であった。到着はシアトルで、同日(国際日付変更線通過のため)午前十一時〇五分の予定を少々遅れてであった。底抜けに明るかった研修生の顔に不安の影が差した。我々を待ち受けているはずのバンクーバー行きバスが、一時間を過ぎても現れない時であった。結局二時間近く遅れてシアトルの空港を離れると、不安の表情は驚きに変わっていた。アメリカのハイウェイの広さ、シアトルの町の美しさがすべての物を吹き飛ばしてしまったのである。驚喜と感動がバスを支配した



カナディアンロッキー・アイスフィールドの前で

私は判断をした。事実、毎朝九時から午後三時十分までのスケジュールは、実にハードであった。昨年までは午前中だけの授業であった。今年は午前中は従来通り、午後はサイエンス・クラスの授業がある。しかもすべて英語で行う授業である。

だが、日工大の学生には驚くべきバイタリティーと真摯な勉強態度があった。失礼ながら、美人のマリー先生?

三週間という短い期間ではあったが、あれほどまで日工大生を魅了する何かUBCにはあるのだということが私は未だに理解できない。

私は、初めての海外旅行というところであって、楽しみもあり、不安でもあり、複雑な気持ちで、八月三日に成田を出発した。

期待と不安を抱いた僕を乗せて、飛行機は、シアトルエアポートに着陸した。初めてのアメリカ、車の流れとレンガ造りの街並、見るものすべてが目新しく、嬉しかった。そして、ホストファミリーとの出会い。ここまで来たら、やるしかないと思ひ、気がついてみたら、一生懸命に話す自分があった。語学力の不安も十二分にあったが、幸いにして「わかってもらおう」という相互の意識と親切心が通じあひ、何とか、相互理解

言いがただが、日工大のキャンパスでは決して見られない価値あるものだと今でも信じている。彼らをおもてなしで駆けつけた情熱は何だったのだろうか。若さ?興味?時間的制約?美人の先生?

三週間という短い期間ではあったが、あれほどまで日工大生を魅了する何かUBCにはあるのだということが私は未だに理解できない。

素直な日々をありがとう

建築学科三年 木村 文彦

僕は、初めての海外旅行というところであって、楽しみもあり、不安でもあり、複雑な気持ちで、八月三日に成田を出発した。

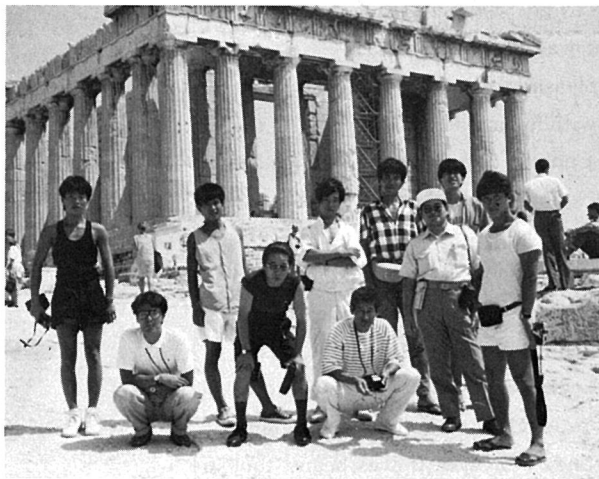
僕は、決してカナダのいい所だけを見てきたわけではなく、ごく普通の家庭で、ごく普通の生活をしてきた。だからこそ、本当のカナダの良さを感じることができた。日本の良さを改めて感じることができたのではないかとと思う。

感動のヨーロッパ

建築学科三年 玉上 和

成田発JALに乗り、一路ヨーロッパへ。最初の訪問地はギリシャであった。先ず、驚いたのは、道路が大理石でできていること、物価が非常に安いことだった。

イタリアでは、古代ローマ時代の建物が立ち並び、圧倒的な美しさを放っていた。ルーブル美術館の中は、まさに芸術の宝庫で、もう少し、ゆつくりと見てみたかった。シヤンソニエに入ってみたが、中はアメリカ人らしい観光客で賑わっていた。本場のシャソンを聞きながらのワインやエスカルゴは、格別な味で



アテネ・パルテノン神殿にて

あった。その時のシャソン「パリの空の下」は、私にとって、忘れられない歌となる。シャンソニエからホテルへの帰り際に、モンマルトルの丘から見たパリの夜景は言葉にならない程の美しさであったが、モンマルトルの音は、パリの夜景にマッチした心地よい響きであった。スペインでは、闘牛を見たが、やはり、本物の迫力があった。また、いたるところにアントニオ・ガウディが残した建物を見る機会に恵まれ、その素晴らしさに感動した。

イギリスでは、霧の都ロンドンを一人で歩いてみたが、残念ながら、英語がなかなか通じなかった。ロンドンには

感動のヨーロッパ

建築学科三年 玉上 和

成田発JALに乗り、一路ヨーロッパへ。最初の訪問地はギリシャであった。先ず、驚いたのは、道路が大理石でできていること、物価が非常に安いことだった。

イタリアでは、古代ローマ時代の建物が立ち並び、圧倒的な美しさを放っていた。ルーブル美術館の中は、まさに芸術の宝庫で、もう少し、ゆつくりと見てみたかった。シヤンソニエに入ってみたが、中はアメリカ人らしい観光客で賑わっていた。本場のシャソンを聞きながらのワインやエスカルゴは、格別な味で



パリ・ベルサイユ宮殿にて

世界各國の産物があり、七つの海を支配していた大英帝国の頃の力を彷彿させた。以上、ヨーロッパ研修旅行

に於いて述べたが、まさに感動の連続であった。是非、もう一度行ってみたいと思う。(東京工業高校出身)

第十四回 ヨーロッパ研修 「紺碧の海より」

団長 城戸 卓男 教養科講師

どこまでも透き通るようなコバルトブルーの海原、燦々と輝く太陽は、肌を焼きつくすが如くきらきらしている。時折り望める島々は白茶けて、僅かに灌木が見えられただけ、人影はなかった。今日は八月二十三日、ヨーロッパ研修の三週間の三週目である。昨日アテネに到着して市内を一巡、特にパルテノン神殿ではその壮大さに感動、今まさにギリシャにあると感無量だった。ここでは僅かばかりの時差ボケとオリ

どの島でも海水浴ができ、私も泳いだ。そしてこの海岸でもトップレスの花盛りで、皆目のやり場に困ると言いなから、ちゃんと瞳のシャッターは押していたようだ。

この「研修」は、単なる旅行ではなく、大学の行事として実施されているので、その統一性も要求される。勿論時間厳守、国際人として決められたことは守るという姿勢が必要だからだ。例えば、船は定刻になるときさっと出航してしまう。そこに容赦はない。事実、ボロス島では、四・五人の乗客が乗り遅れ、波止場に残されてしまったのを、私は達は何ともいえない思いで眺めたものであった。

そのボロスのカフェテラスでの出来事、飲物の勘定を払う時、なかなかまとまらな釣金を繰返し、果ては紙に計算したもので見せつけて、最後

の十ドラクマまで返させて、意気揚々と船に帰ったのは良かったのだが、

「先生、やっぱりおかしいですよ。たしかビル二本、ジュース六本だったでしょう。あれジュース八本計算してなかったですか?」

小柄だが、立派な口髭の若いボーイ、しびしび釣金は返してくれたが、なぜかやにやにしていた。ちゃっかりと、隣のテーブルの空瓶も一緒に計算していたのだ。やられたと思ったが、なぜか腹が立たなかった。皆の大笑いが、紺碧の海に吸い込まれていた。

ヨーロッパ研修はこのようなハプニングから始まり、この後ローマ以下、イタリア、スイス、ドイツ、フランス、スペイン、イギリスの十数都市を巡った。それぞれの国と都市に沢山の印象と想いが残ったが、私にとっても初めての海外、幾つかの失敗も含めて素晴らしい経験を自分のものにすることができたことを幸せに思うとともに、この機会を与えてくださった大学へ深甚なる謝意を表したい。

☆☆☆

(二面より続く)

マナダール 日本に来て一年目で、まだ東京の生活に慣れていない時に、私は友人と酒を飲んで、かなり酔っ払って、最終電車に乗ったのです。そうしたら、乗り越してしまっ、終点まで行ってしまったのです。午前一時頃だったと思います。何しろ、酔っていましたので、降りた所を覚えてなく、どこかの団地に入り込んでしまったのです。しばらくして、酔いがさめてきて、間違いに気がつきました。とにかく、大きな通りに行けば何とかなるだろうということで、大通りに出ました。運よく、一人の通行人がいましたので、

「ここは、どこですか?」
その通行人は、タクシーを止めて、運転手に駒場までの料金を聞いてくれました。二千円位かかるとのことでした。私は、五、六百円しか持っていなかったため、

「ここは、吉祥寺です。駒場まではタクシーで、二、三十分かかります。」と、教えてくれました。
「ここは、どこですか?」
「いえ、こんな時間では



隣人に感謝していると語る陳君

どうぞ、乗ってください。」と私をタクシーに乗せてくれました。
タクシーに乗って、二、三分後、運転手が、
「駒場ですよ。」と言って、つりくれました。
「私、払ってないのですが?」
「あなたの知りあいが、払ってくれました。」
「あなた、何で知ったの?」
「あなたの知りあいが、払ってくれました。」
「あなた、何で知ったの?」
「あなたの知りあいが、払ってくれました。」

たので助かりましたが、財布の中には、十六、七万円と、外国人にとっては、大切な外入登録証明書が入っていたのです。空港に入るには、検閲がある。しかし、身分証明書がない。お腹もすいていますが、昼食も食べられない。本当に困ってしまい、帰ってしまおうと何度か思いましたが、運よく、検閲はどうにか済みしました。
財布をどこに置き忘れてしまったのか、しばらくの間、わかりませんでした。上野駅のトイレの中に、置き忘れてしまったことに気がついたのです。早速、京成上野駅に電話で、問いあわせをしたら私の財布が届けられていました。財布の中身は、そっくり入っていました。とりあえず

拾い主に、電話をし、財布の中に入っていた金額の半額をお礼に差し上げたいと申し出たところ、
「何を言っているのですか。あなたは、はるばるネパールから勉強するために、日本に来たのではありませんか。勉強に励んでください。」
「日本の長所を学んで、自分の国に生かしてください。」
という返事の言葉をもらいました。
感動して、涙が出ました。



日本人の親切に感動したと語るマナダール君

華中工学院から 客員研究員来学



李 清源研究員

昨年十一月二十五日、華中工学院から新たに客員研究員第三陣の二人が来学し、それぞれの研究テーマに取り組んでいる。この二人は、同学院自動制御工学部の李清源助教と賴寿宏講師である。李氏

は、高橋篤夫教授のもとで、ロボットにおけるコンピュータ制御システムなどについて、賴氏は、酒井茂紀助教授のもとで、マルチCPUにおけるロボットの制御技術などについての研究をそれぞれ進めている。研究期間は、約一年間である。
客員研究員第二陣の林奕鴻氏と劉明光氏は、約一年の研究を終えて、昨年十月十三日に帰国した。両氏の研究成果は、「日本工業大学研究報告第十六巻第二号」に、「マルチマイクロコンピュータ制御システムの設計についての検討」(林氏)、「同・第十六巻第三号」に、「ロボットの言語によるロボット開発」(劉氏)と、小型ロボットによる物品の自動選別システムの研究(劉氏)の論文題目で掲載された。

幸せの一年

華中工学院講師 劉 明 光



日本工業大学と華中工学院との学術交流協定によって、私は、昭和六十一年十月二十一日から六十二年十月十四日まで、日工大の客員研究員として、日本に滞在し、またたく間に、一年間の研修生活が終了しました。私は、システム工学科長谷川教授の指導のもとで、ロボットによる重量の自動選別システムの開発について、研究を行い、予定通りに完了することができました。日本工業大学は、私の大学と似ていて、勉強や研究などに適した、静かな学園でした。理論教育を重視する上に、実

際の問題を処理する能力、あるいは実践能力を身につけることを重視することが日本の大学教育の特色であります。日工大はこれに沿った教育研究がよく行われていると感じられました。日本各地で開催された学術講演会に何回か参加しましたが、ほとんどの講演者が実際の問題を研究しているのが印象に残っています。日工大は学生の実践能力を育てることを目指して、学生の卒業研究にも多くの実際的な問題について研究が行われ、大学の教員や職員の実践教育を通して、大きな成果をあげられています。また、日工大の教育と研究用の設備はとも良いと思います。大学一と云われる高電圧設備をはじめ、数多くの立派な設備を持っています。これらの設備を利用して、さまざまな研究が行われていて、新聞の第一面に載

った広瀬洋一助教授の研究のような立派な成果が数多く出されています。
昨年、来日する前に「日本の生活はよかった。」と、劉さんと歐陽さんから聞いていました。日工大に初めて来た日に、工業教育記念館に入ると、林さんと私のための生活道具として、広い部屋にクーラー、テレビ、家具などが沢山あり、食堂の中は各種類の料理道具がバカバカ輝いていました。私の家より素晴らしいと感じました。「日本でも立派な部屋だ。」という誉める言葉を、私のところに遊びに来た友達から、しばしば聞かれました。在日中、皆様が私にとても親切なもので、自分の家にいる時より幸せに毎日を送ることができ、いつの間にか、帰国する日を迎えました。本当に、短い一年間という気がしますが、特に、電気工学科の中道教授は、忙いながらもかわらず、私を、いろいろな工場へ見学に連れて行ってくださり、見学中もいろいろな情報を熱心に紹介

致します。
日本工業大学と華中工学院の両校の友好関係がもっと盛んになっていくこと、中日友好、そして、我々の友情が永久に栄えることを心から祈ります。

卒業後、さらに

日本で勉強

司会 いい話を聞かせていただきます。ありがとうございます。さいます。

次に、卒業後の皆さんの進路を聞かせてください。
チンタムミット 卒業後、しばらく日本で仕事をやってから、タイに帰りたい。タイに帰ってからは、車の部品をつくりたい。できたら、経営度を出さなければならぬので、製品管理、QCのことを



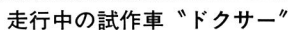
チンタムミット君(左)とチャムノンタイ君(右)

マナダール 大学院で、組織造を勉強していますが、大学院を出ただけでは、何となく物足りない感じがします。ネパールに帰って、勉強したことをすぐに生かせないと思うので、日本の企業にしばらくいて、勉強したいと思っています。
司会 最後に、これから入学的な後輩へのアドバイスがありましたら、聞かせてください。
マナダール 留学生生活は自分の考えが、あやふやでは駄目で、しっかりとした方針を持つことが必要だと思えます。
陳 私の場合は、家庭を持っていますので、アルバイトをしなければなりません。したがって、勉強する時間は、いつも深夜になってからです。やはり、留学するのは、独身のうちがいいですね。
チャムノンタイ 勉強の方はともかく、生活の方では、大学の近くに住んで欲しいと思います。遠いと通学するのが大変だから。
チンタムミット 初めて、



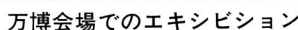
なごやかに行われた留学生座談会

小 倉 勝



を3時間で走る燃費テストが
圧巻であり、また、興味深
かった。スラロームテストは
いわゆるジムカーナのような
もので、スラローム状に置か
れたパイロン間を通り抜ける
テストである。どれだけ速く
目的地に達するかが競われ、
ドライバーの腕と車両性能が
問題となるだけに、迫力があり、
車のポテンシャルが要求され
る。ところが我々の車は参加
車両の中で、最もエンジン排
気量が小さい。それにもか
かわらず、他チームに比べて決

して見劣りする走行ではなく、
時々、前輪をふわりとアップ
させながらの走行には、ドラ
イバーの腕はもとより、その
走行ぶりにナイスノニッポン
ノと拍手の波が起こり、終了
後のパーティィでの話の種にも
なった。また、U B Cの周りの
公道を1回の燃料充填で、
14周150 kmを3時間で走
るテストはクラッシュ、オー
バーヒート、燃料切れなど大
変なものであった。このテス
トで我がチームは1位を獲得
した。さらにエキスポ会場に



表面工学研究室

従来からの塗装・めっきとともに、溶射は第三の表面処理といわれるようになり、現在、国内で二百台を越える溶射装置が多くの工場に使われ、国産の溶射粉末材料も百種に及んでいる。溶射の用途は、航空機・ロケットなどの部品の耐熱・耐磨・耐フレッチング、空気及び油圧機関係のピストンの耐磨・耐食、各種ロールの耐熱・耐磨と補修、長大橋の重防食、大形化学設備と部品の防食と補修、新幹線トロリ線の補修、小形なものでは大量の音響スピーカーの調音用、磁気ヘッドの耐磨、自動車エンジンの排気センサ、静電気シールド用などがある。溶射工学について研究中で、

溶射技術の最近の進歩は、(一)粉末材料の粒度をコントロールしたり、そのカプセル化による複合化、(二)溶射ガン内へのジェット流による粉末速度の向上、(三)真空機器による減圧容器内でロケットなどによる溶射のようなものがあるが、一方溶射の基礎工学とか溶射技術がまだ十分なものではないといわれて、新しい物の処理には工場の技術の蓄積が必要で、少量処理のものも多く、他の方法ではできないくらいセラミックス系のものに集中しがちで、従って溶射費も高価である。

当研究室では、このような

ている装置の一つは手動のフ
 レームガンで、別の一つは工
 業界で半ば以上が実用されて
 いるプラスチック溶射装置で、セ
 ラミックス・金属・プラスチック
 ンクスに適用できる。そして
 セラミックスの場合にはプラ
 ズマ温度一万度以上、粉末流
 速二マツハ近くのものとなり
 二種の異なった粉末の混合溶
 射が可能で、ガンの二軸の運
 行と速度はシーケンス制御で
 き、これらを用いた従来の研
 究はアルミナを主としたセラ
 ミックス系で、基材はSS材
 が多かったが、逐次ステンレ
 ス鋼・アルミニウムなども加
 えるようになった。
 また現在までに、(一)デーバ
 ヤモンドとCBN砥石を持つ
 小型平面研削機、(五)高真空中
 度近くまでの管状加熟炉、(六)
 昨年からの小型イオン窒化装
 置、(七)超高速回転とA-Eセン
 サによる密着性試験機などが
 設置できた。従来までの研究
 結果は、溶射皮膜の耐磨耗性
 ・耐食性、有孔度の測定などで
 あるが、昨年から機械的方法
 とめつきを利用する封孔方法
 を研究中である。また最近プ
 ラズマ溶射中のアルミニウム
 皮膜中に窒化アルミが生成す
 るようなことが研究者の間で
 話題になっているが、当研究
 室では、化学的に安定度の高
 いアルミナがその皮膜中で、
 溶射条件により α 型と γ 型の
 方が破壊の形態と進行状況に
 特色がある結果になっている
 として現在、大学院生の研
 究も加えて、(一)溶射皮膜の新
 しい封孔方法の開発、(二)ステ
 ンレス鋼・チタンとその合金
 などの皮膜のイオン窒化の可
 能性、(三)まだ数少ない研究発
 表中の皮膜のH₂I₂処理によ
 る強化、(四)皮膜の破壊のメカ
 ニズムと密着性の関係などユ
 ニークなものを研究中であり
 今後は皮膜の複合強化、多重
 効果などについても実施する
 ことにしており、また皮膜の
 特性を利用する応用面での開
 発も行ないたいと思つている
 (教授・杉本安次郎)

(教育技術員・渡部修一)

三年程前から卒業研究テーマは100%が溶射とその関連する問題で、大宮周辺の処理工場の問題なども含めるようにしている。研究室が備えている有孔度測定器、四ダイハネ及び試験を行ない、後の各種混合結晶組成となっていることが解った。溶射皮膜の密着性については、JIS法

て展示会、パレードなども行われた。参加チームはかなりのレベルが高く、UBCチームが優勝した。

かくして精力を尽くして参加したイベントの幕が閉じた。キャプテンの岩瀬君を始め、全学生が力を尽くした。また、OBの鈴木氏の参加はチームに活力を与えた。

最後に、試作に協力していただいた学内外の方に謝意を申し上げる。

（機械工学科助教授）

学生部では、去る十二月四日、クラブ活動等特に優秀な成績を収めたクラブ及び個人に対して、その努力と栄誉を称え、さらにクラブ活動を奨励すべくこれを表彰した。表彰された優秀クラブと優秀選手は次の通り。

○文化団体連合会無線部
昭和六十年度社団法人日本アマチュア無線連盟主催第六回全市全郡コンテストにおいて全国優勝。

建築学科四年
町井孝行

昨年八月九日、八月十四日の六日間、毎年恒例の榆井研究室による天山荘合宿ゼミが行われました。

九日の朝、七時一五分山形天山荘へ向けて出発し、途中東北自動車道を通じて、山インターで降り、西吾妻スカイバレーの中腹で、合宿回目の測定を、ガス班、粉塵班が行いました。一四時五三分、全員無事、天山荘に到着し、夜の勉強会では、スノイドを見ました。

一日は、班別に分かれて、実験を行いました。夕食後、OHPを使つての発表会があるということで、昼間は各班とも必死にデータをまとめました。

二日は、山登りの日で、ロープウェイ、リフトを乗り継いで、人形石まで登山し、そこで昼食をとつて、毎回恒例のゴミ拾いを行いました。

下山後、天山荘グラウンドで、榆井先生を交えてのソフトボールを楽しみました。夕食後は、テストを行いました。二時から始まったコンパは、この日、バイトに来ていた女性三人も加わつて、かなりにぎやかになり、榆井先生も大変御機嫌でした。

二日は、バイトに来ていた女性二人を連れて、山寺へ行ききました。山寺に着き、車を降りると、目の前は、あの恐怖の階段が待つていました。

一日は、朝からハードな勉強会が続きましたが、明日帰るということで、早く床に

成績(体団)

	〔硬式野球〕 秋季リーグ戦（2部）：優勝 入れ替え戦にて1部へ昇格 〔軟式庭球〕 関東学生軟式庭球秋季リーグ戦（11部）……………優勝 入れ替え戦にて10部へ昇格 関東理工系大学軟式庭球秋季リーグ戦（3部）……………優勝 〔アメリカン・フットボール〕 リーグ戦関東学生リーグ3部Bブロック……………優勝 〔体操競技〕 関東理工系学生体操競技選手権大会（団体）……………2位 （個人）石川勝彦（4・電）優勝 〔射撃〕 秋季関東学生ライフル射撃選手権大会 A R立射60発競技（4部）団体……………1位
〔体育会硬式野球部〕 昭和六十一年度東京新大 学野球秋季リーグ戦第二部優勝、入替戦において一部昇格。 〔体育会体操競技部〕 石川勝彦君 関西高校出身 主将として、その責務を果すと共によく練習に励み、東日本学生体操競技選手権大会において、優秀な成績を収め、全日本体操選手権大会に出場。	

本学の地域開放事業の一環
関心は高く、受講定員

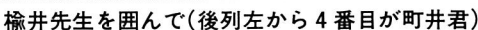
二月十日までの毎週水曜日、パソコン講習会が行われた。これは、県民の生涯学習に寄せる期待と関心が高まりつつある中で、本学のもつ専門的な教育機能を地域に開放し、県民の要望にこたえようとするものである。

込みがあった。抽選の結果、十代の学生から八十四才の高齢者まで、バラエティに富んだ受講者となつた。

なお、講師は、本学情報技術センターの石井治教授、片山茂友講師、丹羽次郎講師が

予想と抱く
県民の期待と
担当した

パソコン講習会の開講式



就きました。

「一四日は、天元山荘前で、記念撮影し、九時に出発をし、途中、五色沼に寄り、その後、峠付近で昼食をとり、一五時三五分、無事、大学へ到着しました。このゼミでの勉強を生かして、皆、卒業に向けて頑張っています。」

(埼玉県立大宮工業高校出身)

